

「頑張れ!!名古屋の演劇人」

名古屋の演劇人の環境は、決して良いとは言えず、そんな中でも、少しでも良い作品をと奮闘している演劇人には頭が下がります。私が写真を撮るにしろ、少しでもやうやく撮った方のお役に立てばと撮り続けています。今回、そうした写真を多くの方に見て頂ける機会ができるたのは、本当に嬉しかったです。



①「ゼロの焦点」(19・1・23)演出・木村繁 昭和文化小劇場。「なごや芝居の広場」第2弾。松本清張の壮大な世界を舞台化。能登金剛の最後の場面が忘れられない。小劇場5館で公演を行った。

③ 「紙屋町さくらホール」（18・6・8）演出・岡田一彦、金子康雄 愛 知県芸術劇場小ホール。
らしい笑あり、涙あり、そして忘てはならない歴史について考えさせられる舞台だった。



気迫の演技とチームワーク

④ 「笠塔婆小町」(1941年)
11・29 演出・伊藤敬
愛知県芸術劇場小ホール
ル。木林(キリン) 演劇
象的だった。
鬼気迫る老女の演技が印象的だつた。



5 「オズの魔法使い」
（1999年9月18日）演出・関根新一、東海市立勤労センター。名古屋で最も歴史のあるプロの演劇団
「人形劇団むすび座」の作品。創立以来、質の高い人形劇を作り続けてい
る。



② 「合唱ミュージカル『それしゃがやつてきました』」は、さまざまに形を変え舞台化されてきた。今回は「親と子のみぞりの杜合唱団」を中心に合唱ミュージカルとして蘇った。

若いクラシック演奏家を総合的に育てるプロジェクト「スター・クラシックス・アカデミア」の第一期合格者10人が決まり、7月から育成プログラムがスタートした。ミニコンが主体とな
り、70社を超える企業贊助を得て、一般社協会を設立。18～30歳対象に1年間、専門講習を続ける。
今年1～3月の第1回募集に、東海地方



スター・クラシックス・アカデミア
第1期合格者(10人)決まる



「こんな時だからこそベストを!」
ファゴット奏者 中山優希
12月22日 電気文化会館で

10月20日 電気文化会館で
待望のファースト・リサイタル

サインを聞く。「30歳の節目にふさわしい公演にしたい。(コロナ禍中の)こんな時期だからこそベストを尽くしたいと気を吐く中山だ。

ファゴットとの出会いは中学の吹奏楽(「背が高かった(170センチ)ので、それに合わせる長い楽器をあてがわれました」と苦笑。そんな偶然が、人生を決定づけるのである。

見た目はゴージャスだが

が音は地味。発音が難いダブルリードで、音程も取りにくい。それだけに奏者が少なく、重宝される(?)。名古屋芸術大学のオープンキャンパスで、「ファゴットな仕事がある」と言われその気になつたとか。「確かに学部時代、ファゴット奏者は私一人だけでした。おかげで1年の頃から、あちこちのコンサートに加えていただけました」。しかしオーケ

い。向上主
ことはない
との相性も
くい楽器だ
だけに取り
ります」。
愛も深まる
初リサ
シユーマン
集「グリ
重奏曲(ほむ
アノ)、福
リネット)
する。
「コンサ

意欲、将来性などを総合的に採点し、10人を選んだ。落選者にも今後が楽しみな人材が多く、初回から狹き門となつた。

このプロジェクトは、プロとして社会で通用する自己プロデュース力を身に着けるのが狙いで、演奏技術のレッスンはなし。講師に演出家の岩田達宗、田尾下哲、作曲家の加藤昌則、歌手の藤木大地、浜田理恵、アナウンサーの平野裕加里ら著

樂器に対する
イタルでは
「幻想小曲」
ンカ「悲愴三
かを中村節(ビ
田紗永(クラ
とともに披露
トを通して、

ストラのオーディションになると、(ファゴットだけで)30人ト60人の応募があるという。何度か挑戦したが、厚い壁に阻まれた。「でも、一度はオーケストラの一員として演奏した」という。中山は、「みんなで楽しめるコンサートにしたい」と期待を込める。自由席2000円(学生1500円)。入場規制があるので、事前の問い合わせを。TEL090(8338)0613、ミュージックプロデュース。

回受ける。名人による講義を月に数回開催する。その間にCBCラジオで出演、来年3月末には成果を発表するコンサートを開く。その後も演奏などのサポートする定期的な内容だ。来年以降も、同様に募集を続ける。合格者は次の通り。

【ピアノ】古田友哉(29)、渡辺友梨(市橋杏子(29))

